

平成31年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立西京極中学校)

教育目標	
校是 「自立と貢献」	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年 10 月 30 日 (水)	学校運営委員会 理事
最終評価		

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
『自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成』 ～つながりを大切にした学力の向上～
具体的な取組
<p>①カリキュラム・マネジメントの視点の下、教科横断的な授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した「他教科の重複内容 カリキュラム・マネジメントにむけて」や今年度作成する関連単元配列表を意識的に活用し、各教科の授業で学んだ知識がつながるような授業を計画、実践する。 <p>②自ら学んだことが仲間との対話の中で、深い学びにつながることを実感できる授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習やグループ学習、その他さまざまな対話的な学びの授業実践について検討や改善をする。 ・自分の考えを安心して発表できたり、仲間の意見をきちんと受け止めたりするなどの雰囲気などの授業でも行えるように、研修会等で他教科との実践交流を行う。

<p>③学んだことが他者や社会につながり、貢献していることを実感できる授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における自分の役割を考え、学びが他者や社会の貢献につながっていくことを実感できる場をつくる（総合的な学習の時間）。 ・週末課題を含めた「<u>家庭での自学自習の習慣化</u>」につながる学習課題作成に取り組む。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムの分析結果。 ・家庭学習での成果物の点検結果。 ・授業内での生徒の話す、聞く態度の変容。 ・生徒及び保護者アンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた」（生徒）</p> <p>②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書くなど表現する力が身についてきた。」（生徒）</p> <p>③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」（生徒）</p> <p>④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」（保護者）</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>生徒及び保護者アンケートの結果</p> <p>①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた」（生徒）の適合度は、5.3ポイントでH30年度後期より0.1ポイント高い。</p> <p>②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書くなど表現する力が身についてきた。」（生徒）の適合度は、5.6ポイントでH30年度後期より0.1ポイント高い。</p> <p>③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」（生徒）の適合度は、5.4ポイントでH30年度後期と同じであった。</p> <p>④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」（保護者）の適合度は、4.2ポイントでH30年度後期より0.3ポイント低い。</p> <p>生徒アンケートや授業の中での生徒の様子から、授業改善を中心にした改善の成果が見られる。一方、保護者アンケートの結果からは、学習面に対する生徒の様子に対して厳しい結果となった。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○ペア学習、グループ学習等の授業を意識的に取り入れ、対話的な学びを意図的に取り入れた授業改善が成果につながってきていると思われる。</p> <p>○校内も落ち着いて学習ができる環境となってきたため、生徒の学習に対して、保護者の関心が高まりつつあると思われ、その結果として、「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる」というアンケートの結果が昨年に比べ下がったと思われる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成を実現するために、</p>

	<p>①授業内での課題設定と、対話的な学びを通した深い学びの実現に向けて、学習の振り返りの記述内容の検討を行う。</p> <p>②基礎基本の家庭学習だけでなく、週末課題を中心として学習がつなるような、また深い学びにつながるような家庭学習課題を実施していく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの分析結果。 ・家庭学習での成果物の点検結果。 ・授業内での生徒の話す、聞く態度の変容。 ・生徒及び保護者アンケートの結果。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参列したが、意欲的で落ち着いていると思う。 ・きめ細かな取り組みがたくさんあり、すごいと思う。 ・不登校の生徒に対しても、その生徒に合わせた学習指導をして欲しいと思う。 ・スマホの時間などで、タイムマネジメントのできていない中学生が多いのではないかな。そのことにより眠そうであったり、元気がなかったりとなっているのではないかな、と思う。 ・子どもたちがもっと本に向き合う時間を大切にするようになって欲しい願う。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	生徒の成長を見取り伝えることにより、道徳的实践力の育成につなげる。
具体的な取組	<p>①教科書の読み物教材を活用して、授業力の向上を目指すとともに、昨年度実施した教科指導と道徳の時間の関連を深めた授業も活用し、学校全体として道徳教育が活性化するよう年間指導計画を立てる。</p>

<p>②年2回の振り返りシートから生徒の成長の様子を見取することで生徒への理解を深め、それにより学校生活において生徒一人一人が道徳的実践力を育成できるよう教員がサポートする機会をつくる。</p> <p>③道徳推進教師等が中学校ブロック3小学校と定期的に情報交流するとともに、小中合同夏季合同研修会で各校の取組状況を中間報告し、中学校ブロックの「育てたい児童・生徒像」をもとに、各校が共通の重点内容項目を設定できるよう引き続き検証を行う。</p>	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動、道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。 ・研修会、研究授業での意見。 ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)</p> <p>②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかりと聞けるようになってきた。」(生徒)</p> <p>③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)</p>	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事において、他者を受け入れる姿勢に変容があった。 ・全国学習状況調査等のアンケートより、「自分の考えを深めたり、広げたりできている」ことや「話し合いを生かして、努力すべきことに取り組んでいる」ことを感じている生徒が多く、前向きな様子が見られる。 ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントで、H30年度後期より0.1ポイント高い。 ②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかりと聞けるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.9ポイントでH30年度後期より0.2ポイント高い。 ③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)の適合度は、5.1ポイントでH30年度後期より同じである。 	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材に対する意識において、指導者側は難しさを感じ、授業での達成感に乏しさがあるが、生徒側は苦手意識がなく、自由な発言・発想ができている。 ・様々な授業で、生徒同士が関わり合いをもちながら学習する形態が増えたことで、学校行事においても、他者の行動や発言を受け入れやすい環境ができた。しかし、その環境が生徒の中で行き過ぎた行動や発言につながるケースがある。例えば、盛り上がりが過ぎると、ただ騒がしい状態になってしまう。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会等を通して、指導者側の授業に対する苦手意識を軽減する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の場でのマナーに対する指導の共通理解を図り，学級活動時には，生徒への声かけを心がける。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動，道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。 ・研修会，研究授業での意見。 ・生徒，保護者および教員によるアンケートの結果。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者としては，家で指導すべきことまで学校でもらっている。 ・道徳の時間に幅広く学習されていることはよいと思う。学級の日々の課題と結び付けて学習を広げていって欲しい。 ・中学校の道徳の内容を知らせて欲しい。 ・道を歩いている中学生は，おとなしいが少し元気がないと思う。 ・何かを伝えられるようになったことはよいが，話をしっかり聞けないのはよくない。中学生が大人になっていくことを考えると，相手の違いを認めながら，話を聴けるようになることはとても大切である。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果
自己評価	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	心身の健康に関心を持ち，生涯にわたって健康を保持・増進する自己管理能力を育てる。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業の中で，ペア学習・グループ学習を通じて対話的で深い学びを重視した授業づくりを行う。 ・新体力テストから自分の現状を知り，家庭での取組に生かす。 ・健康診断，健康観察，保健室情報等を根拠とした健康教育を推進する。 ・キャリア教育，道徳，人権教育，ライフスキル教育，安全教育，情報教育等と関連付けた健康教育の推進で，自他を大切にする態度を育成する。

- ・保健の授業での社会性の向上で、公共の精神に基づく態度を育成する。
- ・基本的な生活習慣を定着させるため、生徒会保健委員会より啓発活動を行う。
- ・学校保健委員会を実施する。
- ・校内教職員研修会を実施する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・生徒の話す、聞く態度の変容。
 - ・1年ごとの新体力テストの結果。
 - ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。
 - ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。
 - ・保護者の学校評価アンケートの結果。
- 該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」（保護者）

中間評価

各種指標結果

- ・生徒の話す、聞く態度の変容は、技能について話し合う姿が多くなったことから見て取れる。
- ・1年ごとの新体力テストの結果は、3年間記入できるカードで確認している。
- ・授業の開始終了時間は、しっかり守れている。
- ・該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」（保護者）の適合度は、5.2ポイントで、H30年度後期より0.1ポイント高い。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保健体育の授業の中では、対話的で深い学びを重視した授業づくりが計画通りにできている。
- ・新体力テストの結果から自分の現状を知り、ふり返りの中で、自分の体力を把握した。
- ・健康診断、健康観察を計画通りに実施し、個別の保健指導に繋げることができた。
- ・「NKGレベルアップ週間」で、生徒会保健委員会より「朝食チェック」を行い、規則正しい食生活定着のための啓発活動ができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒の実態や健康課題を把握し、健康教育を進めていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒の話す、聞く態度の変容。
- ・1年ごとの新体力テストの結果。
- ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。
- ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。
- ・保護者の学校評価アンケートの結果。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は成長期であり、いろいろなことの過渡期でもあるので、心の健康については大切に指導して欲しい。 ・女子のスラックスが、検討の上導入されたことを、大いに評価している。これからはLGBTの理解など、一人ひとりの人権を大切にする取組を期待する。
---------	---

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（４）学校独自の取組

<div>重点目標</div> <p>①小中一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童・生徒が自分の成長に自信を持ち、他者の成長を認め、仲間とともに学び、競い合い、成長し合うことで、生涯にわたって学び続ける意欲を培う。 ・地域や社会の一員として貢献しようとする姿勢を育てる。 <p>②秩序ある学校生活を送る中で、次のような子ども像を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にする児童・生徒。 ・楽しく学び、じっくり考え、しっかり行動できる児童・生徒。 ・困難に対し、粘り強く立ち向かおうとする児童・生徒。 ・社会に目を向け、人の役に立とうとする児童・生徒。 ・<u>地域の方との交流の中で「公共の精神」に基づく態度を育成する。</u>
<div>具体的な取組</div> <p>①月１回の小中合同定例会（校長会・教頭会・教務主任会・研究主任会）を持ち、それぞれの立場から９年間を見通した取組についての検討を進める。</p> <p>②夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。</p> <p>③「中一ギャップ」の解消に向け、体験授業や生徒会本部役員による中学校説明会を行う。</p> <p>④小学校児童会と中学校生徒会の協働の取組を進める。</p> <p>⑤小中学校相互の授業を参観し、道徳では共通の振り返りを実施する。</p>

<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつ。 ・地域の行事への参加数。 ・地域の人と関わるようになってきたか。 ・保護者の学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）</p>	
---	--

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつについては、成果を上げているが、地域行事への関りについては、あまり改善はみられていない。 ・該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）は、適合度は 5.1 ポイントで H30 年度後期より 0.1 低い、H29 年度の前期・後期より高いポイントで維持している。 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会で、さらに踏み込んだ成果を授業や取組に生かしていくことを確認した。生徒会が中心となり、小学校や地域にも協力を仰いで、ボランティア活動を始めた。生徒会本部役員が直接お願いに行き、協力を求めるような活動を行った。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの結果を小学校や地域に返していくような取組を進めていく。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつ。 ・地域の行事への参加数。 ・地域の人と関わるようになってきたか。 ・保護者の学校評価アンケートの結果。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツ行事に中学生も参加してくれている。10代後半、20代も多数参加し、喜んでいる。今後もこのつながりを大切にしたい。 ・地域では、あいさつすると返ってくるが、だまっているとあいさつしない中学生が多い。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div>	
自己	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標
<p>教職員の資質・指導力の向上</p> <p>働き方改革を踏まえた組織づくりや時間管理の工夫</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の研修会とは別に、OJT研修会（若手・中堅道場）を定期的（月に1回）に開催することにより、教職員の資質・能力の向上を図る。 ・職員会議や研修会で、校長・教頭より必要な短時間の研修を行う。 ・カリキュラム・マネジメントの視点で、学校行事の精選をする。 ・職員室などで、整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど、効率的な業務をすすめる。 ・出退勤システムの入力を習慣化し、時間外勤務時間数を意識する機会を定期的につくる。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の時間数 ・教員の学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」 （教員）</p>

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時間数：全教職員の月別平均（時間、分）は、4月66時間25分、5月58時間50分、6月61時間17分、7月54時間11分、8月26時間45分、9月54時間27分です。また、1ヶ月に80時間超の人数は、4月18人、5月8人、6月9人、7月7人、8月0人、9月6人である。 ・教員の学校評価アンケートの結果。該当項目：①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）は、「そう思う」が27.5%、「大体そう思う」は50.0%、「あまりそう思わない」17.5%、「そう思わない」が5.0%である。
自己評価
<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の時間外勤務の時間数や80時間超の人数の比較は、そのつけ方が違うので判断が難しい。来年度以降に判断ができる。年度当初は超過勤務が多く、次第に減少傾向にある。長

価	<p>期休業中は超過勤務が少なくなる。9月は学校祭（文化祭・体育祭）があり，超過勤務がまた増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学校評価アンケートの指数と比べると，高くなく，その成果はあまり見られない。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJT研修会（若手・中堅道場）を何回か開催できたが，後期は定期的に（できれば月1回）開催して，教職員の資質・能力のさらなる向上を図る。 ・職員会議や研修会で，校長・教頭より短時間の研修を継続する。 ・来年度の学校行事の原案図づくりの中で，カリキュラム・マネジメントの視点を持ち，学校行事の精選を図る。 ・職員室などで，校務支援員と協力して，整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど，効率的な業務をすすめられるよう環境づくりを行う。 ・出退勤システムの入力が習慣化してきている。さらなる定着を図る。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の時間数，80時間超の人数 ・後期教員の学校評価アンケート（12月実施）の結果。 <p>該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めて留守番電話をセットすることに賛成する。 ・学校の働き方改革に対して，地域として応援する。 ・働き方改革が前進していくことを期待する。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策